



学校だより

11月号

令和3年10月29日

横浜市立能見台南小学校



← 学校ホームページ
QRコード

変わるものと変わらないもの

副校長 馬場 弘子

日増しに秋の深まりを感じます。緊急事態宣言が解除され、委員会活動やクラブ活動も本格的に始まり、中休みには校庭で走り回る子どもたちの姿を見て、少しずつ日常が戻ってきたと感じます。当たり前であることのありがたさを痛感する時代であると思います。

本年度、能見台南小学校は創立25周年を迎えました。平成9年4月1日、児童数378人でスタートしました。創立記念日は10月31日です。当時の校庭の砂は四国から取り寄せた重たい緑色の砂だったそうです。ドミノピザの前の信号も当初はなかったと聞きました。この学校だよりもある校章は保護者の方からの公募で決まったそうです。『太陽のように 情熱をもって さわやかな風のように生きて欲しい』という願いが込められています。平成26年度は児童数851名にもなり金沢区でもトップクラスの大規模校になりました。教室も足りなくなって、ホールを改造し、一般の教室にしました。

25年前と比較すると、今年は学習形態も大きな変革を遂げた1年になります。コロナ禍における学習の保障ということで一人一台のタブレットを使った学習が展開されました。調べ学習のためにパソコンルームを順番待ちで使っていた昨年度とは違い、全クラスで同時に調べ学習ができる時代がやってきました。わからない知識はすぐに取り出すことができるようになり知識を覚える時代から、いかに活用できるか、という時代が変わったと感じます。

でも、どんな時代でも変わらないものもあります。それは、人と人とのつながりの大切さや、相手を思いやる心です。私が以前見たあるテレビ番組で司会者が「こんなにオンライン学習が進んでいる今、学校に行く必要はないのではないのでしょうか？」と質問していました。解説者は「確かに、大学や高等学校では、それももしかしたら可能かもしれません。でも、小学校や中学校、とりわけ小学校に至っては、人と人との直接的な関わり合いが人として成長するために必要不可欠です。」と言い切っていました。どんなに月日が流れても、どんなにITが進んでも、人と人との直接的な関わり合いがあつてこそ、初めて人として成長していくのだと感じます。それが小学校教育の醍醐味です。これから遠足や修学旅行、体験学習と行事が続きます。相手の気持ちを慮り、コミュニケーションを図っていくことは、今も昔も変わらず、本当に大事な要素だと私は思います。

『太陽のように 情熱をもって さわやかな風のように生きて欲しい』25年前の願いは今もなおしっかりと受け継がれています。この願いは、**自分のことを大切にしながら、同様に相手のことも大切に**する生き方にもつながっていくのではないのでしょうか。様々な場面でそのような姿を大切に育てていく学校でありたいと考えています。